

国 外 実 態 調 査 報 告 書

テーマ : モードのパリ、芸術のパリ
ゼミ名 : 小林 佐江子 ゼミ
調査日 : 2023 年 9 月 2 日 (土) ~ 9 月 9 日 (土)
調査先 : 【フランス】パリ
授業科目名 : 国際教養演習 I・II
参加学生数 : 6 名 (3 年生)

調査の趣旨 (目的)

本ゼミでは、フランスのイメージがどのように形成され、日本人がそうしたイメージをどのように受容しているかを学んでいる。春学期では、19 世紀後半の都市計画の結果生み出されたパリという都市の持つ特別なブランド力、「芸術の都」「モードの中心地」というポジティブなイメージがどのように形成されてきたかを学んだ。今回の海外調査の目的は、パリに実際に赴き、パリの街並みや衣装、美術作品の実物を目にし、授業で学んだことをより深く理解することである。

調査結果

成果として、主に 4 つの点が挙げられる。1、ノートルダム大聖堂周辺等に代表される古い街並みと、オスマン大改造によって生み出されたパリの均整の取れた美しさを比較することによって、19 世紀後半に行われたオスマン都市改造の成果を理解することができた。統一されたパリの建物のファサード、エッフェル塔やオペラ座といったアイストップとなる建築物の特徴、ブールヴァールなどの軸線の美学を実際に観察した。2、春学期にモードの歴史を学んだが、テキストや文献で参照した衣装や装飾品をモード関連のミュージアムやアトリエ等で実際に目にすることができた。また、モードの発展に不可欠であった小売業の変遷も理解が深まった。18 世紀に生まれたパッサージュや 19 世紀のデパート、20 世紀誕生したスターデザイナーのアトリエや華やかなブティックを訪れ、買い物が「必要」から「レジャー」へと変化したことを体感できたように思う。また、ディオールやサンローランのような世界的ブランドがミュージアムを設立することによって創始者のデザイナーを伝説化していく様子は興味深い試みであり、モードの中心地のイメージはいまだ薄れていないことを実感させた。3、芸術の都パリのイメージを支える美術品を実際に鑑賞することができたことは最も大きな成果である。それ以外にも、美術品はある統治者や一国の所有物ではなく、人類すべての遺産であり、その祖国＝芸術の都パリに保管されるべきという考え方は、その是非は別としても、世界中の美術品が保管展示され世界中の訪問者で溢れるルーヴル美術館を訪れることで、実感を伴って理解できたように思う。4、自由行動日には、各人の興味に関連した現地調査を行ったが、それをもとに秋学期にレポートを作成する予定である。